

エピソード41

厳しいお父さんに 子どもの様子を伝えました。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験が
あります。
エデュサポネットのファシリテーターです。



熟年の先生が20代の頃、5年生を担当したときの経験をお聞きします。

私のクラスの恵一君は、思ったことをすぐ口にしてしまい、じっとしていることが苦手で、周りから少しひかれている、と前の担任から引き継ぎを受けていました。

集中力はなくても、やるべきことの理由をきちんと伝えれば、理解してくれました。





そんな恵一君に、
どんなことがありましたか。

何となく元気がなく、気になっていました。

ちょうど個別懇談会があり、ご両親で
来てくれたので、その様子を伝えました。
お父さんは「わかりました。ビシビシ
指導します」とおっしゃって帰りました。





先生は、そんなお父さんの様子を
どう感じましたか。

お父さんは専門職で、厳しい職場に勤務
され、きちんとやることは当たり前、きつ
く叱ればできる、と考えているようでした。
私は、恵一君がお父さんから頭ごなしに
叱られることが多いのかなと思いました。

私がお父さんに伝えたいこととは
違うんだけどな…と思いました。





その後、先生はどうしたのですか。

私は恵一君の対応について、どう伝えればお父さんがわかってくれるだろうと考えました。それで先輩の先生に相談しました。

先輩は「恵一君の、将来に向けての話をしてみたらどうかな」と言いました。





先輩の先生は、どんなことを
伝えたかったのでしょうか。

恵一君は「ちゃんとしろ」「もっと頑張ら
なければだめだ」と言葉で叱られても
理解できず、気持ち下がってしまう。

高学年になった今、恵一君の特性を理解
して、適切な対応を考えていくことが必要
だと思う、と率直に保護者に伝えるのも
いいと思うよ、と話してくれました。





先生には、何か思い当たることがあったのですね。

私は、以前恵一君が「僕のお父さん、いろいろ厳しくて、ちょっと辛いんだ。」と言っていたことを思い出しました。

それで、先輩のアドバイスを参考にして、ご両親に少しずつ伝えることにしました。





伝えたとき、ご両親の反応はどうでしたか。

恵一君は理由がわかればできること、叱る前に話を聞いてほしいことを伝えました。

お母さんはやっぱりという感じでしたが、お父さんは黙って聞いていました。でも最後に「わかりました。もっと恵一と話をするようにします。」と言ってくれました。





なみちゃんの一言

- 不適切な行動は、子どもの特性を理解し、よい面を大切にした言葉かけによって、適切な行動へと変容していくことができます。
- やればできる、強く言えばわかる、と考えている保護者に、学校生活から見える子どもの特性を伝えて、一緒に支援を考えていけるといいですね。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)